

令和2年度第1回大仙市総合戦略推進会議

配付資料の概要

(1) 総合戦略の数値目標及び KPI の検証について	1
(2) 地方創生推進交付金及び企業版ふるさと納税活用事業の 実施状況及び KPI の検証について	6
① 「大曲の花火」ブランドによる農林資源活用新事業プロジェクト ～花火産業振興と森林再生～	6
② 成長的農作物を活用した発酵食 I B U R I プロジェクト	8
③ 野球を通じた交流人口拡大プロジェクト	9

1 総合戦略の数値目標及び KPI の検証について

(1) 計画全体の達成状況について

○大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置付けられた数値目標及びKPIは98件であり、内訳は以下のとおりです。

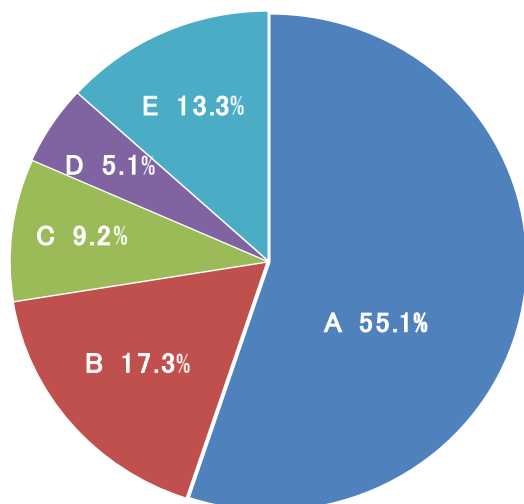
【数値目標】戦略に定めた4つの目標別に定めた目標値	8件
【KPI】施策ごとに定めた重要業績評価指標	90件

○全体の55%がA評価（達成率80%以上）となっており、B評価（達成率60%以上）も含めると全体の7割を超える72.4%となっています。

○一方で、E評価（達成率20%以下）となった項目が13.3%となっていますが、中には社会経済情勢の変化、豪雨や台風などの災害、新型コロナウイルス感染症の影響のほか、所期の目的を達したことで目標に直結する事業が廃止となったことなどにより、E評価となった項目もあります。

○以上を踏まえると、昨年度実施した効果検証の結果と同様、全体として概ね順調に推移し、期待した成果を得られたものと捉えています。

	基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	計
A 80%以上	23	16	9	6	54
B 80%未満 60%以上	5	2	5	5	17
C 60%未満 40%以上	6	0	3	0	9
D 40%未満 20%以上	4	1	0	0	5
E 20%未満	6	3	0	4	13
計	44	22	17	15	98



評価の方法

目標値に対する実績値の割合により、次の5段階で評価しています。

A	: 80%以上
B	: 60%以上 80%未満
C	: 40%以上 60%未満
D	: 20%以上 40%未満
E	: 20%未満

(2) 目標別の達成状況

【基本目標1】 地域資源を活かす産業の振興

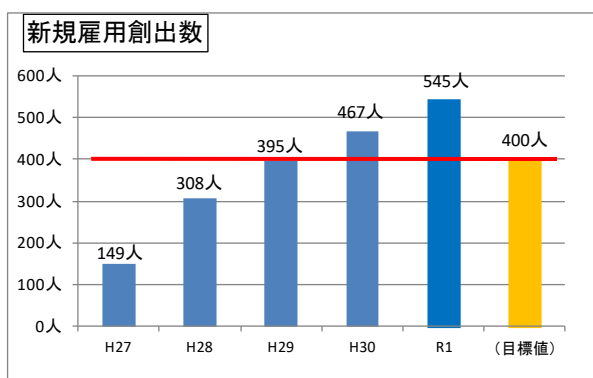
- 「新規雇用創出数」「新規就農者数」ともA評価（達成率80%以上）となっています。
- 本目標全体の達成状況を見ると、A評価（達成率80%以上）52.3%となっており、B評価（達成率60%以上80%未満）も含めると全体の63.7%となっています。

①数値目標の達成状況

○新規雇用創出数 **達成状況 A**

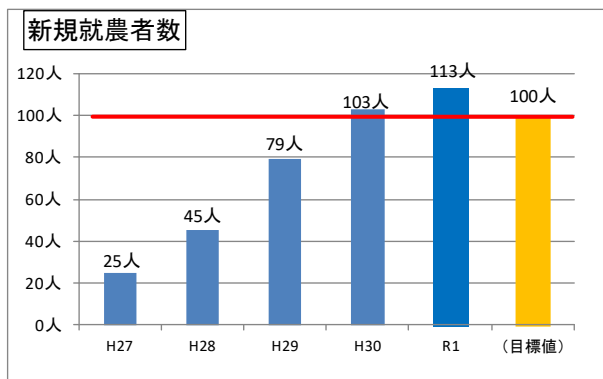
新規雇用した企業への助成とハローワークと連携した取り組みに加え、平成29年度からは新卒者及びAターン就職者等に対象を絞った支援を行っており、毎年度一定数の新規雇用者数を確保しています。

一方で、全国的に人材不足の傾向にあることや、求人と求職のミスマッチなどから、有効求人倍率は高止まりしている状況にあります。



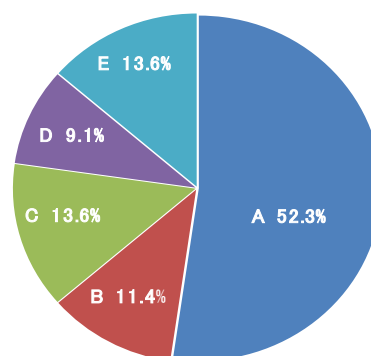
○新規就農者数 **達成状況 A**

市の新規就農者研修施設において、研修生が希望する研修作物の新技术や設備を導入し、必要な技術や知識を周年で実践的に研修できる環境を整備したに加え、国の経営支援等の活用により、新規就農者が継続的に確保されています。また、就農後の営農計画の策定指導により、就農定着も図られています。



②目標全体の達成状況

区分	数値目標	各施策のKPI	計
A 80%以上	2	21	23
B 80%未満 60%以上	0	5	5
C 60%未満 40%以上	0	6	6
D 40%未満 20%以上	0	4	4
E 20%未満	0	6	6
計	2	42	44



【基本目標2】 魅力あるまちづくりと移住・定住の促進

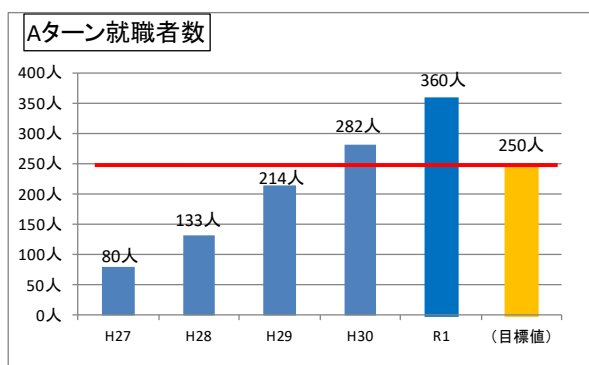
- 「Aターン就職者数」「本市への移住者数」ともA評価（達成率80%以上）となっています。
- 全体の達成状況を見ると、A評価（達成率80%以上）が72.7%となっており、B評価（達成率60%以上80%未満）も含めると全体の81.8%となっています。

①数値目標の達成状況

○Aターン就職者数 **達成状況 A**

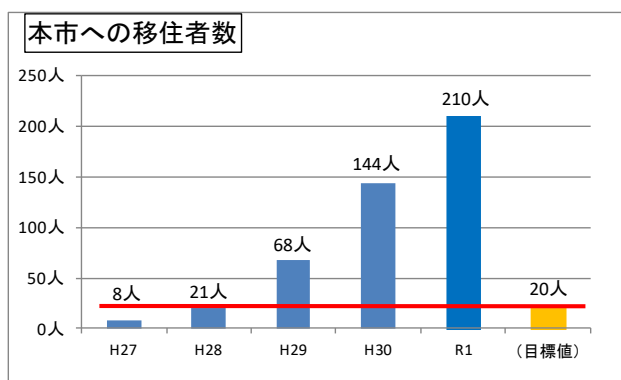
全国的な田園回帰の流れに加え、県と連携した情報発信、就職PRに努めた結果、Aターン就職促進事業への登録者数が増加しており、実際にAターン就職者の増加にもつながっています。

また、関係機関との連携強化や地域雇用活性化推進事業の推進により、目標値以上の成果となっており、市内企業の人手不足の一助となっています。



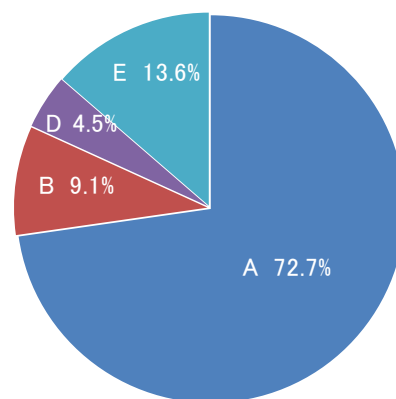
○本市への移住者数 **達成状況 A**

「第1期移住・定住促進アクションプラン」に基づき、移住希望者の仕事や住まいなど、移住に関する悩みの解決をサポートする移住相談体制を構築できたことで、移住者の着実な増加につながっています。



②目標全体の達成状況

区分	数値目標	各施策のKPI	計
A 80%以上	2	14	16
B 80%未満 60%以上	0	2	2
C 60%未満 40%以上	0	0	0
D 40%未満 20%以上	0	1	1
E 20%未満	0	3	3
計	2	20	22



【基本目標3】 大仙市の明るい未来へ～子どもの誕生を地域で応援～

○「合計特殊出生率」「子育て支援の満足度」ともA評価（達成率80%以上）となっています。

○全体の達成状況を見ると、A評価（達成率80%以上）が52.9%となっており、B評価（達成率60%以上80%未満）も含めると全体の82.3%となっています。

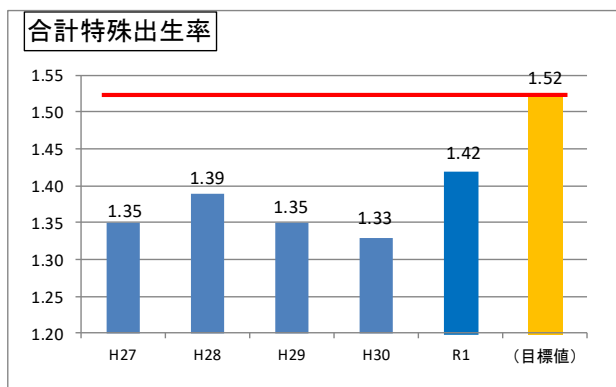
①数値目標の達成状況

○合計特殊出生率 **達成状況 A**

男女とも若年層の転出が続いていることに加え、未婚率や平均初婚年齢の上昇に伴う未婚化・晩婚化等の影響により減少傾向にありましたが、令和元年度には分母となる女性人口の減少（1人当たり出産数は増加）が影響し、上昇しています。

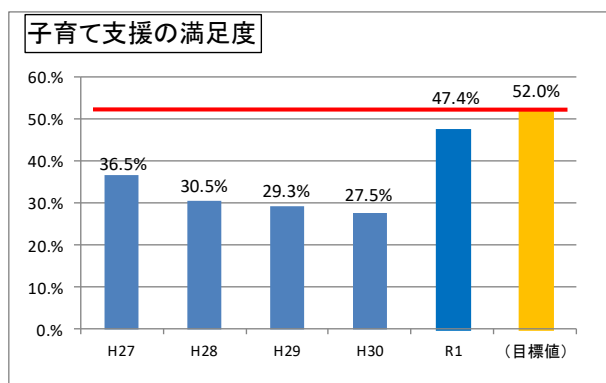
合計特殊出生率の上昇が見られたことで、出産や子育て世帯に向けて取り組んでいる施策が、子どもを産み育てやすい環境の形成に少なからずつながっており、結果として出生率の上昇に結びついているものと捉えています。一方で、出生数は引き続き減少傾向にあります。

※R1 数値は人口動態保健所・市区町村別統計(R2.7)に基づく(基準値を除く各年度の実績値は秋田県平均)



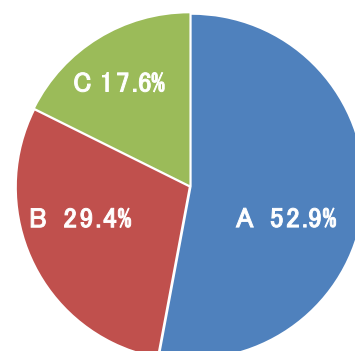
○子育て支援の満足度 **達成状況 A**

支援制度の周知不足等により経年的に減少傾向にありましたが、子育て支援への取組状況や成果の公表に努めた結果、最終年度に大きく上昇しており、妊娠から出産、育児までをフルサポートする無料の母子手帳アプリ「すくすくはなび」の配信や、子育て世代包括支援センターの開設に加え、既存制度の拡充、制度の周知強化による認知度向上の取組が満足度につながっているものと捉えています。



②目標全体の達成状況

区分	数値目標	各施策のKPI	計
A 80%以上	2	7	9
B 80%未満 60%以上	0	5	5
C 60%未満 40%以上	0	3	3
D 40%未満 20%以上	0	0	0
E 20%未満	0	0	0
計	2	15	17



【基本目標4】 住みよいまち、心豊かに暮らせる地域づくり

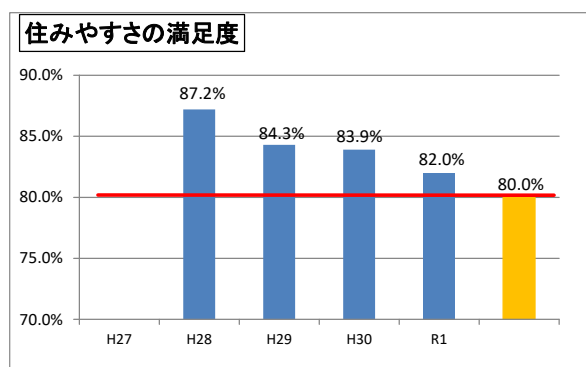
- 「住みやすさの満足度」はA評価（達成率 80%以上）、「社会活動・地域活動に参加した人の割合」はB評価（達成率 60%以上 80%未満）となっています。
- 全体の達成状況を見ると、A評価（達成率 80%以上）が 40.0%となっており、B評価（達成率 60%以上）も含めると全体の 73.3%となっています。

①数値目標の達成状況

○住みやすさの満足度 **達成状況 A**

市が実施する地域公共交通の維持や公園・緑地の整備、空き家対策に加え、自主防災組織や共助による除排雪活動、さらには地域活性化への取組など、住民が主体となった地域課題への取組の増加などが、住みやすさを感じる要素になっているものと捉えています。

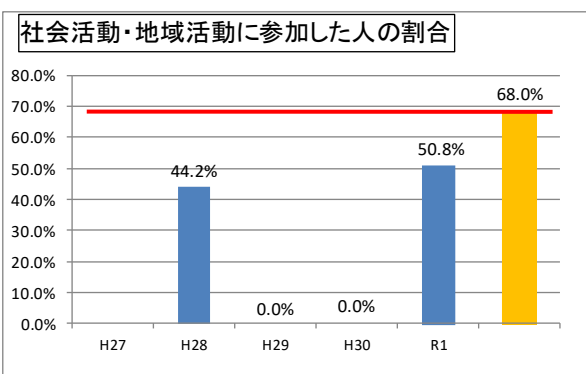
一方で、満足度は低下傾向にあり、環境的要因や経済的要因、個人の価値観や地域性などが複雑に絡み合い傾向に現れているものと考えられます。



○社会活動・地域活動に参加した人の割合 **達成状況 B**

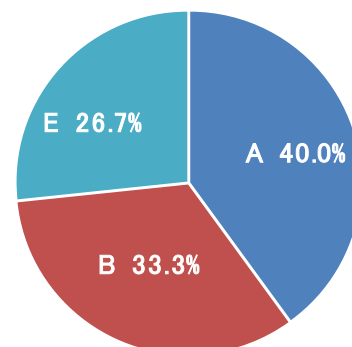
地域コミュニティの状況や個人の価値観の相違などにより、参加が進まない状況にあります。

一方で、複数の地域において、買い物支援や除排雪などの地域課題に取り組む共助の取組が始まっているほか、若者が積極的に地域活動に参画するなど、地域づくりに関心を持ち、積極的に取り組む事例が増えています。



②目標全体の達成状況

区分	数値目標	各施策のKPI	計
A 80%以上	1	5	6
B 80%未満 60%以上	1	4	5
C 60%未満 40%以上	0	0	0
D 40%未満 20%以上	0	0	0
E 20%未満	0	4	4
計	2	13	15



2 地方創生推進交付金等活用事業の実施状況及びKPIの検証について

- 各事業とも概ね順調に進捗しています。
- KPI（重要業績評価指標）については、天候や新型コロナウイルスの感染拡大の影響等により一部で目標値を下回っていますが、ほとんどの指標が基準値（申請時）を上回る実績となっており、概ね期待した成果が得られているものと捉えています。

(1)「大曲の花火」ブランドによる農林資源活用新事業プロジェクト ～花火産業振興と森林再生～

地方創生推進交付金

①事業の概要

- 事業目的 花火文化の価値を高めるとともに、人材や原材料等の市内調達への切り替えを促進し、花火製造業を循環型・持続型の産業として定着させる。
- 事業期間 平成29年度～令和元年度
- 事業内容
 - ・花火イベント等情報発信事業
 - ・花火師育成・確保支援事業
 - ・「メイドイン大仙」花火原料開発事業
 - ・県内産花火用マツ炭販売普及事業
 - ・お土産商品ブランド「せんのぜん」展開事業
 - ・「大曲の花・美（はな・び）」ダリア販売普及事業

②令和元年度事業 **事業費 11,947千円(交付金 5,974千円)**

花火イベント等情報発信事業

→「FMはなび」で花火大会や鑑賞方法に関する情報番組を毎週月曜・木曜に放送したほか、花火大会時に特別番組を生放送しています。また、大曲の花火関連ホームページへのアクセス数を伸ばすため、SNSと連動した情報発信を行っています。

花火師育成・確保支援事業

→令和元年9月12日・13日に、高校生向け特別講座を大曲農業高校、大曲工業高校、六郷高校の3校で開催しています。

「メイドイン大仙」花火原料開発事業

→秋田県立大学、大曲の花火協同組合、(一社)大仙市観光物産協会と共同研究を実施。製造条件の見直しによるコスト削減、品質管理のための工業分析マニュアル整備、試作花火の評価のほか、副産物として生産される木酢液の成分分析を行っています。

県内産花火用マツ炭販売普及事業

→令和元年度分として(一社)観光物産協会が6,238kgの製炭を行い、(株)花火創造企業が4,275kgの粉碎を実施しています。生産したマツ炭については、(株)花火創造企業が令和2年2月に国内花火会社100社にサンプル1,560kgを提供し、販売促進活動を行っています。

お土産商品ブランド「せんのぜん」展開事業

→新商品として、おかゆシリーズの開発に着手。全参加事業者を主体とするブランド協議会を設立したほか、市内3か所の道の駅での販売開始に道筋をつけています。

「大曲の花・美（はな・び）」ダリア販売普及事業

→リーフレットを作成し、大田花き市場卸業者等への販促活動を実施しています。優れた花の新品種を決めるコンテスト「ジャパンフラワーセレクション」に出品し、「橙炎（とうえん）」がベストフラワー（優秀賞）を受賞したほか3品種が入賞しています。また、第93回全国花火競技大会の開催にあわせ、「はなび・アム」別館において、大型アレンジメント作品を展示しています。

③KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

KPI① 大仙市産花火用マツ炭出荷量

→製造機械のトラブルによる遅延の影響で、令和元年度の実績は前年を1トン下回っています。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全国的に花火大会が中止となり、原材料需要が大幅に減少していることから、今後は需要の回復を待ちながら、生産及び販売活動を再開していきます。

KPI② 大仙市観光物産協会のお土産品売上額

→花火ブランドを活用し、戦略的に商品展開したことにより、JR大曲駅及びインターネット上の公式アンテナショップで、売上が大幅に増加しています。

KPI③ 事業実施による観光入込客数

→令和元年10月の台風19号により「大曲の花火―秋の章―」の開催が1週間延期となったことや、新型コロナウイルス感染拡大の影響により「大曲の花火―冬の章―」の開催が見送りとなったことなどが影響し、観光入込客数は大幅な減となっています。今後は十分な感染症対策を講じた上で、適時の花火大会再開を目指すとともに、国・県の補助事業を活用しながら、「プライベート花火」を中心とする新たな花火イベントを創出するなど、密集・密接を避けた形で誘客が可能な観光コンテンツの造成を急いでいきます。

KPI④ 観光入込客増加による経済波及効果

→観光客の属性及び消費単価等により観光消費に関する直接需要額を推計し、秋田県産業連関表経済波及効果分析ツールにより経済波及効果を算出しています。令和元年度の観光入込客数が基準値を下回ったことに伴い、経済波及効果増加分についても前年を下回る結果となっています。

KPI(重要業績評価指標)		H28 基準値	H29 増加分	H30 増加分	R1 増加分	累計 H29～R1
大仙市産花火用マツ炭出荷量(t)	目標	—	3.00	5.00	5.00	13.00
	実績	0	2.30	4.70	▲ 1.00	6.00
大仙市観光物産協会のお土産品売上額(百万円)	目標	—	0.30	0.60	0.90	1.80
	実績	27.80	3.27	5.48	4.23	12.98
事業実施による観光入込客数(万人)	目標	—	1.50	1.60	1.80	4.90
	実績	270.00	12.25	▲ 13.52	▲ 11.01	▲ 12.28
観光入込客増加による経済波及効果 [※] (百万円)	目標	—	67.66	72.17	81.19	221.02
	実績	2,302.00	552.56	▲ 417.56	▲ 11.00	124.00

※当該指標は前年度との比較増減値であることから、資料2における同一名の指標(基準年からの観光入込客数の増加分をもとに算出)とは値が異なる。

(2) 成長的農作物を活用した発酵食IBURIプロジェクト **地方創生推進交付金**

①事業の概要

- 事業目的 本市の特産品であるいぶりがっこを活用し、農業所得の向上や生産性の向上を図りながら、持続可能で自立した産業として確立する。
- 事業期間 平成30年度～令和2年度
- 取組内容
 - ・産地化に向けた気運の醸成
 - ・大規模生産に向けた調査研究
 - ・販路拡大の推進
 - ・原料大根供給の体制づくり
 - ・大仙市産ブランドの確立推進
 - ・いぶり文化の継承と観光活用

②令和元年度事業 **事業費 7,198千円(交付金 3,599千円)**

原料大根供給ネットワーク構築調査

→原料大根の連作障害への対応に関する栽培研究、管理台帳の作成、「大仙市大根生産マニュアル」の作成を実施しています。

いぶりがっこ加工分析調査

→栽培研究で栽培した大根を使用しいぶりがっこを製造。栽培試験結果との関連性を分析調査を実施しています。

大仙市産いぶりがっこのブランディング

→いぶりがっこを活用した二次商品アイデアコンクールを開催。専用パッケージと統一ラベルを製作し、3点を商品化しています。

③KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

KPI① 原料大根生産量

→本格的な生産拡大は令和2年度以降のため、成果が現れるのは同年度以降となります。

KPI② 二次商品数

→いぶりがっこの二次商品アイデアコンクールを開催。78点の応募の中から最優秀賞1点、優秀賞2点を選定し、市内道の駅等で販売開始。地域ブランドとして地域で共有、確立し発信することで、特産品としての認知度向上、付加価値創出による農業所得向上、生産・製造意欲向上による供給量の増加など好循環が期待されます。

KPI③ 二次商品売上金額

→本格的な販売開始は令和2年度以降のため、成果も同年度以降となります。

KPI(重要業績評価指標)		H29 基準値	H30 増加分	R1 増加分	R2 増加分	累計 H30～R2
原料大根生産量(t)	目標	—	0	0	50	50
	実績	47	0	0		0
二次商品数(個)	目標	—	0	2	1	3
	実績	0	0	3		3
二次商品売上額(千円)	目標	—	0	0	2,684	2,684
	実績	0	0	0		0

(3) 野球を通じた交流人口拡大プロジェクト **企業版ふるさと納税**

①事業の概要

- 事業目的 スポーツツーリズムを機に本市を訪れた方々が「もう一度行きたい 500 歳野球の大仙市」として本市の魅力を全国に発信することで、年間を通じた本市への来訪者増を図る。
- 事業期間 平成29年度～令和元年度
- 事業内容 企業版ふるさと納税の対象：全国 500 歳野球大会開催事業

②令和元年度事業 **寄付金の額 1,600千円**

第3回全国 500 歳野球大会

- 32 チーム（県外 22 チーム）が参加しトーナメント戦を実施しています。
- 前年同様、市内観光ツアーを開催しています。
- 「国指定名勝 旧池田氏庭園」では、ユニフォーム等を着用した出場チーム関係者の入場料を無料としています。
- トーナメント敗退チームとの交流試合に参加した市内5チーム30人が大会運営のボランティアに参加し、地域で大会を盛り上げる気運を醸成しています。

③KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

KPI① 県外からのスポーツツーリズム目的（野球関係）による入込客数

→目標には達していないが、概ね千人程度で推移しており、地域経済に好影響を与えています。また、延べ人数は増加傾向にあり、継続的に利用する団体もあるなど認知度が向上しており、地域との継続的な交流が地域活性化や市の魅力発信、関係人口の創出にもつながるものと期待されます。

KPI② 県外チーム参加者数

→当初の目標を上回るペースで推移しており、観光ツアーや地域との交流を通じ、交流人口の増加や地域の活性化につながっています。また、メディアの特集が組まれるなど「親父たちの甲子園」として定着しつつあり、本市を代表する全国規模の生涯スポーツ大会としてさらなる成長が期待されます。

KPI③ 県外チーム参加者の市内宿泊者数

→交通機関の割引制度の活用などにより目標に達していないものの、市内宿泊施設のあっせんにより毎年 500 人程度の宿泊者数を確保しているほか、市内観光も行っており、一定の経済波及効果をもたらしています。

KPI(重要業績評価指標)		申請時	H29	H30	R1
県外からのスポーツツーリズム目的 (野球関係)による入込客数(人)	目標	—	1,100	1,200	1,300
	実績	915	947	1,080	994
県外チーム参加者数(人)	目標	—	330	400	440
	実績	201	388	463	505
県外チーム参加者の市内宿泊者数 (人)	目標	—	430	520	580
	実績	209	514	518	513